

No.50
2011.7

いなみ町 議会だより

田植え (稲原小学校)

6月定例議会

23年度補正予算(議案審議)と事業のクローズアップ……………	P2~P3
一般質問「ここが聞きたい」8人が登壇……………	P4~P11
常任委員会報告……………	P12~P13
いなみジュニアテニスクラブ紹介・あとがき……………	P14



第2回定例会・開会前風景

6月定例議会

議会は6月9日から16日まで開かれました。
今議会では、平成23年度の補正予算を中心に
20議案を審議し原案どおり可決しました。
一般質問は8人の議員が登壇しました。

平成23年度一般会計補正予算 (7,594万6,000円)

今回の補正予算の事業内容とそ れに対する質問。

農林水産業費・鳥獣害
対策費 484万8千円

総務費・防災諸費―海
抜表示板 100万6千
円

Q

報償金は1頭当たり
どの程度の増額になっ
ていますか。

A

県は獣(猪)の銃捕
獲に対し5千円から1
万円に増額した。
これに伴い町も報償
費を1万円から1万5
千円に見直しを行いま
した。

Q

誰が見ても理解しや
すい表示板にする必要
があると考えますが。

A

今回の増設はかなり
高い所にも視野に入れ
た中で設置拡大。地域
拡大を図ってゆきま
す。

基本的に電信柱へ表
示する予定です。

農林水産業費・真妻わ
さび振興協議会への補
助金 80万円

Q

この補助金で具体的
にどんな事業をするの

ですか。

A

わさび田の復興を目
的とした補助金です。

総務費・新庁舎建設事
業設計委託料 5千万
円

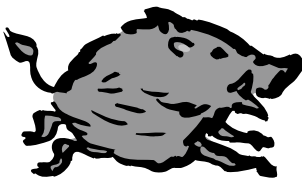
Q

今年の10月末に基本
設計、平成23年度3月
末期に実施設計がで
き、23年度内で設計完
了の予定です。

新庁舎は免震構造に
なる予定のもとで、今
後の地震の規模につい
てどの様に考えていま
すか。

A

免震構造は極めて安
全性が高く、震度7以
上の地震であれば3以
下の揺れを想定してい
ます。





印南町税条例の一部改正（全員賛成）

東日本大震災により被災した納税者の軽減をはかるため、新しい法律ができて施行されているため、印南町の税条例を一部改めました。

主な内容は東日本大震災の被災者に対し税金の控除や軽減措置の対応を図るというものです。

◎以下の工事契約について議会は承認しました。

- ①印南原工区配水管布設工事
契約金額 7,624万円
契約相手 (有)坂井家おこし
- ②切山工区配水管布設工事
契約金額 6,951万円
契約相手 (株)千代徳組
- ③稲原西工区配水施設工事
契約金額 6,310万円
契約相手 (株)久堀組
- ④切目川河川改修に伴う
水道施設（浄水）補償工事
契約金額 9,618万円
契約相手 水道機工(株)
- ⑤体育センター耐震化等改修工事
契約金額 6,509万円
契約相手 (株)駒場工務店



工事期間6月17日～10月17日完成予定

意見書2件を採択し国や関係機関に提出しました！！

- ①大幅増員と夜勤改善で安全・安心の医療・介護を求める意見書
- ②独立行政法人国立病院機構和歌山病院の充実を求める意見書

その他主な議案

- ◎国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）について
- ◎同和対策新築家屋貸付金特別会計補正予算（第1号）について

地震・津波に強い町づくり

玉置 克彦 議員

質問 現在ある浜地区の非難タワーと、避難困難地域の解消を予定した避難タワーの建設について、どの様に考

えられていますか。

答弁 町長
安全確保をするために何が必要なのか、最終

的にそういった事を考慮して判断をして行きたいというふうには思っております。

質問 外ヶ濱の整備は住民の皆様が求める公園整備、防災の観点を加味する中でどのように考えられていますか。

答弁 建設課長
漁港埋立地内、外ヶ濱への公園整備については見直しをし、防災の観点を加味しながら、避難場所を想定していく中で検討していく考えです。

質問 津波により町内が壊滅的な被害を受けた場合を考えれば、庁舎移転を最優先するのではなく、町民が少なくとも安全に避難でき

る対策を講じることが、一番優先されなければならぬと考えますが、いかがですか。

答弁 総務課長
整備計画をできる限り前倒しして進めていきたいと考えています。

質問 緊急時の避難場所・避難道路の整備について、現在どのようにされているのですか。

答弁 総務課長
避難道路・避難場所の総点検を行い優先的な対策を講じていきたいと考えています。

質問 現在設置されている防波堤・防潮堤が今の状態で津波に耐えることが出来るのですか。

答弁 建設課長
国・県の動向に注視しながら中長期的な課題と認識しています。

質問 自主防災活動について、今現在どのように考えていますか。

答弁 総務課長
自主防災組織と地域との協力体制というものを促進する必要な支援・助成については、積極的に育成に努めていきたいと思っております。



印南湾の防潮堤(国道路面で海拔5、6m)

ここが聞きたい

企業撤退は行政だけの責任か 士気の低下などともんでもない

日裏 勝己議員

印南町の今後

質問

「子育てするな

ら印南町」で、人口の減少に歯止めはかかるのか。



活性化は図られるのか。金鳥や紀州ファスナーが印南町から撤退される中、働く場所の確保、『企業誘致・企業団地の造成』に取り組みべきではないのですか。

答弁 総務課長

国勢調査において前回より586人減少しています。定住促進事業や各種子育て支援事業を展開し、歯止めをかけたかと考えています。

答弁 町長

金鳥や紀州ファスナーの撤退にしても行政だけ責任を問われるのもつらいところがあります。企業団地造成は、将来のための先行投資と理

今後の消防団

解しています。しかし私
のリスクにすることを、
払拭できるものを皆さん
で作れるのであれば、前
向きに考えて行きたと思
います。

質問

経費の削減等により、団員の士気の向上や、支える家族に対

答弁 総務課長

する配慮が欠けていま
す。
必要であると思うが
どの様に考えられてい
ますか。

団員の皆様の理解に
より、士気の低下もなく
大きな成果を挙げている
ことに感謝しています。

答弁 町長

消防設備・幹部研修
等積極的に対
応していきま
す。

除虫菊工場跡地



幹部研修・
健康診断・点
検作業費・出
動手当等の増
額等、他の自
治体ではやつ
ていません。
「士気の低
下などとも
ない」と
思っています。

わが町の減災対策を問う

井上 孝夫 議員



質問 庁舎・学校施設へ緊急地震速報端末を設置しては。

答弁 総務課長
庁舎への設置につきましては、現在J・A LERTシステムを利用して整備を図る予定

です。学校施設につきましては、教育委員会と協議し、対応を検討したいと考えています。

質問 全町一斉防災訓練を実施しては。

答弁 総務課長
行政・地域が連携した防災訓練の実施について具体的に検討している段階であり、各地区の実態に即した避難訓練を兼ねた総合訓練を検討しています。



「地籍調査」について

質問 地籍調査の現状と調査終了年度は。

答弁 建設課長
平成22年度末現在で11・2%の進捗でございます。平成36年度を最終年度として計画しています。

「安全確保・対策」について

質問 黒潮フルーツライン分岐地点に大型車両の直進通行不可の注意勧告の標識看板の設置。

庁舎前の、車いす使用者用駐車区画の整備
新庁舎へは、思いやり駐車区画の設置を提案致します。

答弁 総務課長

標識看板については、管理者である県に対しまして道路安全上、必要な措置を要望してまいりたいと考えています。

駐車区画の整備については、可能な限りの対応を図りたいと考えています。

思いやり駐車区画は、ユニバーサルデザインを基本に対応していきたいと考えています。

(思いやり駐車区画)



地震、津波に おける防災対策

岡本 庄三議員

3・11東日本大震災をうけて、今後どうするか

質問

町内4小4中学

校の大規模改修、耐震



工事に50億円からを投入してきています。低い場所に設置されている学校、印南小学校が海拔約3m、印南中学校が海拔約5m、切目中学校が海拔約7mこの3校を高台に移転させることは考えられないか。

答弁 教育課長

移転は無理、当面は現状の体制で運営するものであります。津波から子どもたちを守るため、各学校とも在校時、登下校時、休校時のそれぞれの状況の中で緊急避難マニュアルを作成するなどして、防災教育、防災訓練に取り組んでいきます。

再質問 訓練も大事だがハード面で避難道等の整備も必要ですが、いかがですか。

答弁 町長

避難道に関しては、地域の小中学校だけではなく自主防災会なんかもしっかりと協議をしていただいて、どこにつければいいのか検討すればよい。

質問 道路が寸断された場合の役場と各地域間の連絡機能や被害調査にオフロードバイクやアマチュア無線の活用も考えてはいかがでしょうか。

答弁 総務課長

緊急時のオフロードバイク、それからアマチュア無線の活用については、導入に積極的に対応したい。

質問 災害時の飲料水として利用出来る井戸水の調査はできないのか。

答弁 生活環境課長

自主防災組織など協力をしていただき、飲料水に使えるような井戸の把握をしたいが、飲料水として使用するには水質が問題となってくる。

水質検査をすればほとんどの井戸で大腸菌などの細菌が検出される可能性が高いと思われる。

その他の質問事項

海拔表示板の設置・災害時の避難場所に倉庫を建設、倉庫は税が高いので軽減を。

― 自助、共助、公助の立場から ―
防災対策を問う

榎本 一平 議員

質問 東日本大震災の発生で改めて防災意識の向上、防災訓練などの重要性を再認識する

必要があります。防災訓練など行政側の対応として具体的にどのような計画を考えていますか。



答弁 総務課長

総合的な防災訓練は11月26日で実施予定として検討中です。

7月以降、自主防災組織と連携を図りながら進め、全町的な大規模な訓練を想定していきます。

質問 自主防災組織が、

これから本格的に活動を行い役割を果たすために行政側は今後、どのような対応を考えていますか。

答弁 総務課長

連絡協議会の設立による自主自立意識の向上、研修会などの開催、備蓄物資への費用助成等、プロジェクトチーム

で検討しています。

ますか。

質問 地域からは「自主防災組織は災害全体

に対し対応する組織であり、活動実績があれば、それに対し財政的な支援が欲しい」との声も上がっていますが、柔軟に対応するべきではありませんか。

答弁 町長

行政側が「支援がない」と判断すれば積極的に関与していきます。バランスも必要で依存体質にならない、という事が前提になります。

町の環境対策の具体的な取り組みはどうなっているか。
 ― 温暖化対策を中心に ―

質問 地球温暖化に対する見解と町が取り組んでいる温暖化対策の現状は、どうなっているか。

地球温暖化に対する見解と町が取り組んでいる温暖化対策の現状は、どうなっているか。

答弁 生活環境課長

地球温暖化について新エネルギーの活用が重要であり、住民、事業者、行政等が一体で活動できるように、環境に対する意識の醸成に取り組みます。

「地域新エネルギービジョン」を策定しています。

当町の取り組みとして、ごみの減量化で22年度は21年に比べ161t減量できており、CO₂の量も削減されています。

他、LEDの防犯灯導入、避難道路の蓄電池内蔵街灯や公用車のハイブリッド車の導入など温暖化対策に取り組んでいます。

町防災対策についての見直し

村上 誠八 議員



町予測想定の見直しについて震度8.7、最大津波6m以上の想定予測に対し連動地震により、震度・津波の予測が高くなる可能性がある。

予測の変化により緊急避難場所・避難道の設置や整備、また避難の方法や訓練の仕方を変えなければいけません。

住民の津波による命の安全保障は逃げる。住民避難の認識を高めることにつきます。

町長行政報告より

防災に対する体制の見直しと総点検を実施する、庁内に防災対策検討委員会を設置、地域防災計画を策定し、危機管理の意識向上を図る。

町長から防災への取り組み決意を頂きましたので、防災に関する質問は、5人目です。関連質問は4名の議員と重複するので削除します。

質問 見直しに伴い関係区長や自主防災会との地域別の検討会を開催する考えはありますか。

答弁 総務課長

避難計画等につき、行政が積極的に関与していく。7月をめどに対策について協議していきたくと考えています。

質問 マグニチュード9の地震が想定されるもとで、中山間まで被害拡大します。

その避難対策について、お聞きします。

答弁 総務課長

海拔表示板の設置、避難場所経路の設定に、自主防災組織と協調して優先的に取り組みたいと考えています。

質問 緊急避難場所について地域指定で表示した看板の設置について、お聞きします。

答弁 総務課長

個人の状況により早く高台に逃げるが基本であり個人が位置する場所が違ってくる。海拔表示に重きを置き出来る限り、高い所に逃げる自覚と意識を高めていただきたい。

新婚世帯が安心して住める 住宅増設は！

西山 徹議員

質問 若者定住対策については、積極的に対策を講じ、実施しているが、新婚世帯が安心して住むことができる町営住宅の増設は考えられないか。

答弁 建設課長

公営住宅の新規建設計画については、平成11年から25戸の新規住宅を建設しており、一定の行政課題について整理できているものもあり、新規の公営住宅の予定はありません。

再質問 印南町に住みたいと言う若者の声を受け止められないか。



答弁 建設課長

公有地を民間の活力を利用しながら事業の展開をしていくことで明るい見通しが持てるかと期待している。

「所得制限の見直しは」

質問 新婚家庭が町営住宅に申し込む場合に、前年度の奥さんの所得も一緒にすると所得制限にひっかかり、申し込めなくなることもあり、所得制限の見直しを考えるとできないか。

答弁 建設課長

例えば、退職証明書であるとか離職証明書の提示があれば、所得にはカウントされません。

その他、津波対策3点・パイプハウス建て替え事業の支援について、質問しました。

印南町の今後の 防災対策について

堀口 晴生 議員



質問 東日本大震災は決して遠くの地域の災害ではなく、今回の大

震災を教訓にし、町民の防災意識向上を図る必要があります。

行政の迅速な取り組みが必要である事項として。
① 印南町の防災計画の見直しについて
② 防災組織に対する支援
③ 大災害時における避難用品の備蓄について
④ 災害関係インフラ整備について
以上の4点において、今後30年の間に起きるであろう東南海・南海地震・東海地震との3つの連動、想定外の規模となることが予想されます。防災計画の、見直しについての考えをお聞きます。

答弁 総務課長
国・県の基づく対応

を基本としながら、町単独の判断で見直しが必要で、本年4月から職員で構成する防災対策検討委員会を立ち上げ、災害時の行動計画、検討課題について対策、協議を重ね防災計画の見直しを具体的に進めています。

外ヶ濱公園 計画について

質問 大震災を受け、外ヶ濱埋め立て地の公園計画を変更し、他の場所の建設を目指すという記事もあり、どのような埋め立て地の有効利用について考えているのかお聞きます。

答弁 総務課長
現時点において具体的に決定しておらず、基本的な方針として、高台への整備を前提に、見直しにつきましては防災広場等を備えた多機能な公園の整備を考えている段階です。
埋め立て地の利用については、現時点で環境面に配慮した整備ということを考えています。



外ヶ濱埋立地

委員会活動報告

「総務文教常任委員会」

防災危機管理の
現状と今後について

地域防災計画による

被害想定

模
(東日本大震災前)の規

人的被害

・死者 168人
・負傷者 125人

・マグニチュード 8.6
・最大震度 7以上
・最大津波水位 6.4m
・第一波到達予想時間 23分

建物被害

・全壊 3584棟

津波の浸水想定

印南町津波避難マニユアルのとおり。

現状の施設整備状況

①蓄電池式避難誘導灯を町内(印南・切目)に90カ所設置。

②海拔表示坂を町内(津井・印南・切目)に178カ所設置。

③浜地区に津波避難タワーを設置(海拔9.4m)

今後の対策

①自主防災のワークショップ等による避難場所や避難道の見直しを検討していきます。

津波浸水想定も見直す必要がありますが、国・県の基準の見直しに合わせま

(委員長所見)

国・県の基準の見直しには時間がかかります。「津波警報」が出ればまず高いところに逃げる。自分の命は自分で守ることである。

今後の課題は「私だけは大丈夫」というおごりをどう解決していくかです。



町はプロジェクトチームを立ち上げ、津波対策アクションプログラムを作成して11月ごろ図上訓練を行う予定であります。

「厚生常任委員会」

「紀州きのこ園印南」

障害者就労支援の仕組みが大きく変化する中で、「ワークメイト印南」の視察研修をさせて頂きました。

ワークメイト印南は平成23年2月1日開所し就労継続支援A型事業所として、定員10名で「印南きのこ園」の菌床をつくる培養工場の業務の一部、菌床のポット洗浄などを、6時間の勤務時間での就労を行い、将来的にはきのこの栽培をも手掛けていく計画だそうです。



平成23年5月9日 竹中氏より説明を受ける。

(委員長所見)

障害者の自立、社会参加を促進し、安心して住みなれた地域で生活が送れるには、福祉・雇用等が一体となり推進する必要があります。中でも障害者の雇用・就労支援は最も重要であり、生き甲斐を持って社会で活躍できる職場作りや障害者の就業力の向上をはかり、多様な可能性に挑戦できる社会を実現する必要があると考えます。



菌床のポットと蓋を洗う

(委員長所見)

自らの健康状態を管理し、健康診断を定期的に受診することで健康の維持と疾病の予防、そして早期発見及び治療に備えるためにも健康診断は必要不可欠と考えます。

健康増進（ドッグ受診等）
御坊保健所所長 野尻孝子氏より、
①管内における各種健康（検）診受診状況。
②各種がん検診受診体制。
③健康21推進事業の取り組み。
管内・印南町の実施状況の説明を受けました。

産業建設常任委員会

千両施設

印南町の花である千両の産地維持、真妻地区活性化のため22年度から3年間事業を実施するものです。

内容は、千両施設の修繕の資材費50%を町が補助するもので、限度額は25万円(反当たり)となっています。

22年度の実績は14戸19カ所(89アール)で事業費は303万6千円でした。
23年度は400万円の事業を見込んでいます。



老朽施設

(委員長所見)

この事業については、真妻地区の千両農家のやる気を起こすものであり、特産品の維持と山間地農業のために必要な事業であると考えます。



事業実施後の施設

真妻わさび復興事業

平成20年に真妻わさび振興協議会をたちあげて、復興にとりくんでいます。

平成21年度からは、ふるさと緊急雇用事業を利用して、ボックス栽培の栽培実験を行うとともに、協議会において旧わさび田の復興にも取り組んでいます。

(委員長所見)

少しずつであるがわさびの生育を実感しました。協議会の会員皆さんの活気を感じました。

産地の復活を期待しています。



ボックス栽培



復興したわさび田

印南ジュニアテニスクラブ



**チーム編成人数
全員で28人です**

- ・6年生 6名
- ・5年生 11名
- ・3年生 7名
- ・2年生 4名

チームの紹介

印南・切目・稲原・清流と町内の小学生が集まっています。

学年・学校に関係なくみんな仲が良く、クラブの練習は技術に合わせて行いますので低学年の入りも歓迎です。また、バーベキューやお別れ会などのイベントを行い交流を図っています。

- 最近のチームの成績**
- ・県小学生選手権
男子の部3位、6位、
8位入賞
女子の部4位入賞

- ・全国小学生選手権
4名出場
- ・近畿小学生選手権
6名出場

これからの目標

- ・近畿小学生選手権
団体優勝
- ・個人ベスト4
- ・全国小学生選手権
団体ベスト4
- ・個人ベスト8
- ・秋季県小学生選手権
優勝
- ・新人戦全国大会出場

監督からの一言

テニスを好きになってもう一つ事が一番。そして中学校、高校と続けて欲しい。少子化が進み団体生活が苦手な子供が多く感じます。テニスを通して色々な学年また近隣の小学校との交流の中から健全な関係をつくってほしいと思います。

あとがき

広報議会だよりも50号発行です。今後ともより多くの方が積極的に議会の傍聴に参加して町議会の活性化に一助いただきますようよろしく申し上げます。

議会広報特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 榎本 一平 |
| 副委員長 | 玉置 克彦 |
| 委員 | 日裏 勝己 |
| | 杉谷 考祥 |
| | 岡本 庄三 |
| | 藤薮 利広 |

